

在京大使を対象にした映画「めぐみ」上映会 野田総理大臣挨拶

平成23年12月16日（金）
外務省・飯倉公館

各国大使の皆様にかかれましては、この様にたくさん本日の上映会に御参加を頂きました事、とても感激をしております。また横田めぐみさんの御両親、そして被害者御家族の皆様にもご来場頂きまして感謝申し上げます。

私も週末に家内と共にこの「めぐみ」DVDで拝見をさせて頂きました。私からこの機会に皆様に、特に3つの事を訴えたいと思います。

第1は、拉致問題は厳然たる事実であるということであります。映画の中で起こった事はフィクションではありません。愛する家族と生きながらに引き裂かれるという常識では考えられないような悲劇が現実が発生しているという事であります。

第2は、拉致問題は依然として未解決の問題であるという事であります。北朝鮮は、拉致問題は解決済み、北朝鮮には、もはや日本人の被害者はいないと主張していますけれど、納得のいく説明は一切ございません。私は全ての拉致被害者を即刻帰国させよと、改めて強く訴えたいと思います。

第3に、拉致問題はグローバルな問題であります。既に韓国、タイ、ルーマニア、レバノンの政府が、自国民が北朝鮮によって拉致された事を公式に確認しています。拉致問題は、基本的な人権の侵害という普遍的な問題であり、国際社会全体にとっての重大な関心事項であります。拉致問題の解決の為には国際的な連携が不可欠であります。

今年の3月の東日本大震災に際し、拉致被害者の御家族の皆様は被災された人々にお見舞いのメッセージを出されました。そして瓦礫の下にいるのがわかっているのに助けられない方々がいる。我々の家族も北朝鮮に囚われているのが分かっているのに助けられない、と訴えられました。

私達は大震災の際に、今日お越しの皆様为国々含めて、160以上の国々から大変温かい御支援を頂きました。この御支援を決してこれから忘れる事はございません。そして世界の各国の皆様から、そうした強力な御支援を頂きましたが、同じ様にその様な強力な御支援を、全ての拉致被害者の救出の為に頂戴出来るように、今一度心からお願いを申し上げたいと思います。

どうもご静聴ありがとうございます。

※ 野田総理のご挨拶模様の動画・音声については、「政府インターネットテレビ」にてご覧いただけます。（<http://nettv.gov-online.go.jp/prg/prg5621.html?t=58&a=1>）